





事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意識や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立田辺高等学校 】

1 実践テーマ	【 I・II 】
2 実施対象者	京都府立田辺高等学校 1年生330人 2年生328人
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ()</p> <p>② 行事名 (車いすバスケット選手を迎えて)</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<p>1・2年生それぞれの学年のまとめの時期にしっかりと自分の将来を考える契機としたい。</p> <p>身体の障害を克服し、自分の持てる能力を最大限に引き上げる努力をして人生を切り開く姿を見て、自らの人生を積極的に生きる意義を理解させたい。</p>
5 取組内容	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;">     </div> <p>京都アプス・レイク滋賀の選手6名によるデモンストレーション 1・2年生各チームに選手1名が入っての体験ゲーム 京都アプス山本英嗣選手による講演(障害に立ち向かい人生を切り開いてきた御自身の経験を話されました。また、日常生活で障害のある人への優しさを持って欲しいともお話になりました。)</p>

<p>6 主な成果</p>	<p>生徒の感想文より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初は車いすでプレイするから動きが遅かったりするのかなと思っていました。しかし、そうではなくスピードも出ているし、クイックな動きをしてすごいと思った。(講演の話)を聞いていたら、「何事も、なせば成る!」と思った。 ・身体障害者の人のことを考えることはあってもその中でスポーツをしている人のことを考える機会が今までなかったので、貴重な話を聞くことができ良かったです。急に体が不自由になってもバスケットという打ち込めることを見つけたことで希望を持って生きていけるんだらうなと思いました。パラリンピックはオリンピックより注目されない風潮があるけれど、今日ゲームを見てすごく面白いと思ったし、他の人にも面白いことを伝えたいと思いました。 ・やっぱり自分たちは恵まれているんだと思いました。下半身麻痺など自分になったらと考えると・・・リハビリなどもすぐにあきらめてしまおうかと思いました。けど、お話を聞いて思ったことは、自分より大変な思いをしている人がいるし、もっともっと自分のできることを見つけて積極的に自分から行動しなければならないと思いました。自分もこの先何があるかわからないので、頑張らないといけないと思いました。 <p>○類似の感想は非常に多く、人生を前向きに捉えて、自ら切り開く意欲を生徒たちが感じ取った点が大きな成果である。また、パラリンピックへの関心が高まったという言葉も多く見られた。</p>
<p>7 実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボールであることはわかっているが、車いすを使うことで変化するルールや運動技術を最初に紹介する。 ・障害があるからできない、と言うだけではなく、このスポーツに関わることで新しくできるようになったことにも目を向けるように指導する。 ・生徒自身の心に揺さぶりをかけ、自分の人生のこととして考えられるような内容とする。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な啓蒙活動が必要である。ほとんどの生徒は障害のあるアスリートの実際の活動の様子を見たり、話を聞いたりすることでパラリンピックへの興味を持ったり、共生社会の重要性を知ろうとする。人生への肯定的、積極的な姿勢を持つ。しかし、その心を継続して揺さぶる必要がある。 ・多くの生徒はマスメディアをとおしてパラリンピックについては十分情報を得ているが、多くの障害のある選手が、メディアに取り上げられなくても、競技力向上のために地道な努力を続け、障害を乗り越えて競技を続けるための経済的な困難を克服して、出場している事実をさらに広める必要がある。 ・学校の対応として、講演や指導を頼む場合の適切な時期を計る必要がある。学校の行事日程と選手やコーチの日程とを調整することは極めて難しい。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・選手の講演、デモンストレーション、部活生徒への指導などの形で継続して実施していきたい。 ・昨年実施した高名な指導者を招いて、地域の中学生も集めて一緒に指導してもらおう機会も、検討したい。